

令和 7 年度第 1 回鳴門市水道事業審議会 会議概要

開催日時：令和 7 年 8 月 4 日（月） 14 時 00 分から 15 時 30 分まで

開催場所：鳴門市水道会館 3 階第 1 会議室

出席者：審議会委員 10 名

【開発委員、五島委員、近藤委員、田村委員、中岸委員、原委員、益岡委員、森委員、森本委員、矢野委員】

鳴門市 7 名

【近藤企業局長（途中退席）、寺前参事兼水道事業課長、大和水道企画課長、事務局 4 名】

欠席者：審議会委員 4 名

【岡田委員、川口委員、芝野委員、細岡委員】

開催次第

- 1 開会
- 2 企業局長挨拶
- 3 諮問
- 4 議事
 - （1）鳴門市水道事業ビジョンについて
 - （2）前審議会の振り返りについて
 - （3）水道事業の現状と課題について
- 5 その他
- 6 閉会

会議資料

開催次第

座席表

鳴門市水道事業審議会運営要綱

資料 1 鳴門市附属機関設置条例（抜粋）

資料 2 鳴門市水道事業ビジョン（概要版）【平成 28 年 3 月策定】

資料 3 前回の審議会の振り返り

資料 4 本市水道事業の現状と課題について

資料 4（別紙） 経営比較分析表

会議概要

- 1 企業局長の開会挨拶後、会長に対して鳴門市水道事業ビジョンについて諮問を行った。
- 2 議事（１）について、資料２を用いて事務局より内容の説明を行い、質疑を行った。質疑の概要は別紙のとおり。
- 3 議事（２）について、資料３を用いて事務局より内容の説明を行い、質疑を行った。質疑の概要は別紙のとおり。
- 4 議事（３）について、資料４、資料４（別紙）を用いて事務局より内容の説明を行い、質疑を行った。質疑の概要は別紙のとおり。

【別紙：質疑概要】

・議事（１）鳴門市水道事業ビジョンについて

（委員）

管路の修繕業務に携わっていることから、修繕しなければならない箇所が複数あると感じるが、今後どのような計画で進めていくのか。

（事務局）

後の資料３で、市内の耐震化状況を示す管網図を見ていただきながら説明するが、浄水場をはじめ、基幹管路や重要給水施設など、優先度の高い施設から更新及び耐震化に取り組んでいる。これに加えて、ご意見のあった内容については、随時ご相談いただき、対応を検討させていただきたい。

・議事（２）前回の審議会の振り返り

（委員）

最近、木津中継ポンプ場付近で、業者の方々が測量などの作業をしているが、どういった内容のものか。

（事務局）

現在、木津野松村線の送水管更新工事を実施している。今後、イエローハットの付近から北側にある木津中継ポンプ場までの区間を対象とした布設替工事を予定しており、これの実施設業務を発注している。

・議事（３）水道事業の現状と課題について

（委員）

人員体制について、災害時など、いざとなったときに行政として指揮をとれるのか、その人数はいるのか、業者と連携を図れるのか、減らすだけではなく、計画の中で、適正な人員体制を検討いただきたい。

（事務局）

これまでの取り組みとして、検針や収納業務など包括的な委託業務を推進し、人員の適正化を図り、経営の合理化に努めてきた。ご懸念の、他課との協働をどうするのか、震災時の対応は本当に大丈夫なのか、というご意見はその通りである。50人、60人、何人いればいいのかという答えは持ち合わせていないが、大規模災害が発生した際には、1事業体だけでの対応は難しいと考えており、相互応援の連携、受援体制の整備が課題と認識している。

長期的に見れば、香川県のように1つの事業体で運営している広域化の事例もあり、国の方針もこういった取り組みにシフトしている。しかし、実現は容易ではなく、当面は現状のできることを推進していく。一方で、人員（人件費）の増減により経営状況がどうなるのかなど、様々な視点で影響を考慮し、バランスを取りながら最適な事業運営を考えたい。

（委員）

水道業者として協力するが、行政が指揮し、どこを修繕するのか、修繕後、残土、廃材等はどこにもっていくのか等、細かい流れを共有しておかなければならない。起こってからでは遅いので、双方話し合う中で、行政としての指針を示してほしい。

（会長）

事業を進めるにあたり、それぞれの役割を確認し、計画や事業の指針、協力体制の在り方を考えていただきたい。どの主体も同じだが、財源には限界があり、もどかしい状況であると思われる。いかにご指摘の内容をビジョンに盛り込んでいけるか、この審議会の中で議論していくべき内容である。

（委員）

鳴門病院は災害拠点の病院であるため、次期ビジョンでは各配水池までの送水管の耐震化を行っていただきたい。全てが無理であれば、重点化して中央配水池までは進めていただきたい。鳴門病院にはヘリポートが完成し8月には訓練を予定しているが、いざ災害時に水が使えない状況では治療も何もできない。

（事務局）

ご意見あったように中央配水池までの耐震化は最優先すべきと認識している。

木津中継ポンプ場からの配水量は市内の約80%を賄っており、中央配水池から先は、市内中心部、鳴門町、鳴門公園、島田島まで水を送っており、約60%を賄う配水量になる。災害拠点や各地にある避難場所など重要施設へ続く送配水管の耐震化及び更新も行っていくが、まずは、木津中継ポンプ場、そして中央配水池までの送水管の耐震化を優先的に進めたいと考えている。

（委員）

上水道がないところに水道を引っ張る際、受益者負担で引っ張ると思うが、下水道事業ではどうか。排水施設がないところは受益者負担の観点で引っ張らないといけないのか。

（事務局）

水道では、新たに水道を利用開始する際に加入金をいただいている。

下水道の場合は、下水道施設の整備区域において、その施設の利用者から面積に応じて受益者負担金をいただいている。水道の給水区域はほぼ市内全域だが、下水道の整備区域は市内の中心部となっている。

(委員)

先日ある起業家と話す機会があり、水の問題としか聞いていないが、鳴門市に十分対応してもらえず、結果、鳴門市ではなく板野町に進出することになった。上水道か下水道かは定かではないが、鳴門の中心部ではなく、大量の水を排出する事業だと聞いた。

やはり、工場など、新規利用者の開拓について、市として戦略的に考えて、柔軟に対応していかなければならないのではないかな。

また、資料に「持続」いつまでも使える水道とあるが、いつでも使える水道という視点もあってもいいのではないかな。

(事務局)

下水道施設がないので、企業は水処理にコストがかかり、進出のハードルになっていると伺ったことはある。上下水道としてご意見いただいたので、このような課題を情報共有し、双方の事業運営に生かしていきたい。

(委員)

水道料金に対する下水道料金が低い。市として、上下水道料金を考え、利用者が他市町村に移ってしまわないような料金体系を考えなければならないのではないかな。

(会長)

この点、市としてどういう方針を取っていくか、鳴門市総合計画など上位計画で連携いただきたい。また、水道事業ビジョンにも、こういった視点をどのように盛り込んでいくか、次回以降の審議会でも継続的に議論していけたらと考えている。

課題のまとめとして示されている、「持続」、「安全」、「強靱」3つの基礎的な観点に、どういった工夫ができるかという「挑戦」の観点もあると思うので、これを加えた形で、素案をお示しいただき、次回以降、目標設定などを審議できたらと考えている。